

# 漢文 孟浩然『春暁』定期テスト対策問題 | 形式・押韻・現代語訳の頻出設問と解答

## 解答・解説

---

### 問1 五言絶句（ごごんぜっく）

〈解説〉一句が五字、全体が四句なので「五言絶句」。一句五字・八句なら五言律詩、一句七字・四句なら七言絶句となる。

### 問2

- ・一句の字数 … 五（字）
- ・句数 … 四（句）

〈解説〉「五言」は一句が五字であること、「絶句」は四句から成ることを表す。

### 問3 暁・鳥・少

〈解説〉それぞれ「ギョウ（暁）」「チョウ（鳥）」「ショウ（少）」と、響きの似た音（-yō/-ō系の韻）でそろえてある。第一句末の「暁」も韻を踏んでいる点に注意。

### 問4 （例）偶数句の末字で押韻する。

〈解説〉五言詩では原則として偶数句末（この詩では第二句「鳥」・第四句「少」）で韻を踏む。なお『春暁』は第一句末「暁」も韻を踏んでおり、これは初句から押韻する形である。

### 問5

- ・書き下し … 春眠暁を覚えず
- ・現代語訳 … （例）春の眠りは心地よく、夜が明けたことにも気づかない。

〈解説〉「春眠」は春の眠り。「不覚暁」は「暁（夜明け）を覚えず＝夜明けに気づかない」。春の朝のついねむってしまう心地よさを表す。

### 問6 イ（気がつく）

〈解説〉ここでの「覚」は「目をさます」ではなく「気がつく・自覚する」の意。「暁を覚えず」で「夜が明けたことに気づかない」となる。

### 問7

- ・書き下し … 処処啼鳥を聞く
- ・現代語訳 … （例）あちらこちらで、鳥のさえずる声が聞こえてくる。

〈解説〉「処処」はあちこち。「聞啼鳥」は「啼鳥（鳴く鳥）を聞く」。目ざめたあとに耳へ届く春の気配を描く。

### 問8 読み … しょしょ／意味 … あちらこちら・いたるところ

〈解説〉同じ字を重ねて「あちこち」という広がりを表す。

### 問9 （例）鳴いている鳥。さえずる鳥（の声）。

〈解説〉「啼」は鳥や虫が鳴くこと。「啼鳥」で「鳴く鳥」、転じてその鳴き声を指す。

## 問10

・書き下し … 夜来風雨の声

・現代語訳 … (例) 昨夜から (聞こえていた) 風と雨の音よ。

〈解説〉「夜来」は「昨夜から・ゆうべ」。寝ているあいだに降っていた風雨を思い返している。

## 問11 イ (昨夜から)

〈解説〉「夜来」は「夜が来る」ではなく「昨夜から・ゆうべ以来」の意の熟語。ここを「夜が来る」と訳すと第四句とのつながりが崩れるので注意。

## 問12

・書き下し … 花落つること知んぬ多少ぞ

・現代語訳 … (例) 花は、いったいどれほど散ってしまったことだろうか。

〈解説〉昨夜の風雨で散ったであろう花の量を思いやる句。「知多少」で「どれほどか (わからない)」と、数量を問いかけながら詠嘆する。

## 問13 イ (どれほどか 〈数量への問いかけ〉)

〈解説〉ここでの「多少」は「多い少ない」ではなく「どれくらい・どれほど」という数量をたずねる言い方。

「知多少」で「どれほど (散ったか) わかるだろうか=どれほど散ったことか」となる。

## 問14 ウ (疑問 〈反語をふくむ〉)

〈解説〉「多少 (いくばくぞ)」は文末で数量を問いかけ、答えを求めるといより詠嘆 (〜だろうか) に近い疑問を表す。句法としては疑問の一種。

## 問15 否定 (ひてい)

〈解説〉「不」は下の語を打ち消す否定の字。「不覚 (覚えぬ)」のように、必ず下から返って読む。

## 問16 ア (暁を覚えぬ)

〈解説〉「不」は否定の助字で、下の「覚暁」を読んでから最後に「ず」と読む。よって「暁を覚え (て) →ず」=「暁を覚えぬ」の順になる。

## 問17 三 (第三句)

〈解説〉起承転結では、第一句=起句、第二句=承句、第三句=転句、第四句=結句。第三句「夜来風雨声」で、朝の景色から一転して昨夜の風雨へと話題が転じている。

## 問18 イ

〈解説〉春の朝のうとうとした心地よさ (第一・二句) から、昨夜の風雨と散った花への思い (第三・四句) へと展開する。のどかさ、過ぎゆく春・散る花を惜しむ気持ちが主題。アは杜甫『春望』など、ウ・エは別作品の主題。

問19 (例) 昨夜の風雨で、花がどれほど散ってしまったかと思ひめぐらし、過ぎゆく春や散る花を惜しむ気持ち。

〈解説〉直接「悲しい」「惜しい」とは言わず、「花落知多少」と数量を問いかける形で、花を惜しむ心をしみじみと表している点がこの詩のうまさ。

**問20** 啼鳥（鳥の声）・（風雨の）声 ※「啼」「声」を含む語であれば可

〈解説〉この詩は「見る」よりも「聞く」描写が中心で、鳥の声や風雨の音といった耳でとらえた春が詠まれている。これが『春暁』のさわやかさ・臨場感を生んでいる。

**問21**

- ・時期 … イ（盛唐）
- ・詩人 … 王維（おうい）

〈解説〉孟浩然（689～740）は盛唐の詩人。自然・田園をうたう作風が王維と近く、二人あわせて「王孟」と呼ばれる。

**問22** イ（自然や田園の風景をえがく詩）

〈解説〉孟浩然是、雄大な自然や静かな田園の風景に、人生の思いをかさねてうたう「自然詩人（田園詩人）」として知られる。『春暁』もその代表作である。

【補足・本文の異同について】第三句「夜来風雨声」は、古い詩集『文苑英華』では「欲知昨夜風（夜来の風を知らんと欲す）」という別の形で伝わっている箇所もありますが、現在の教科書・参考書では「夜来風雨声」が一般的です。テストでは教科書本文に従って答えましょう。